

9

健康づくりを支える保健師の専門性～小林市の保健事業を通して～

小林市役所 健康推進課 峯田孝子

1 はじめに

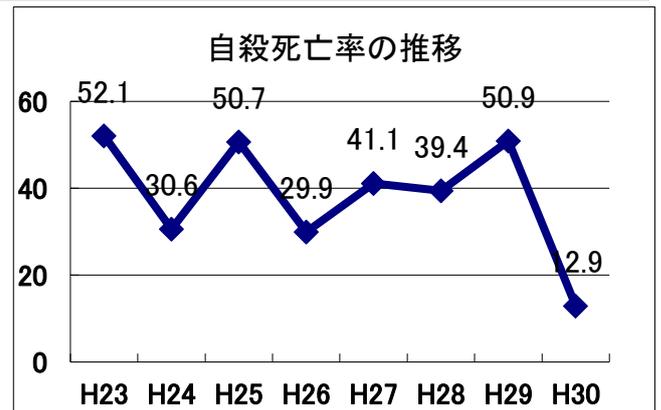
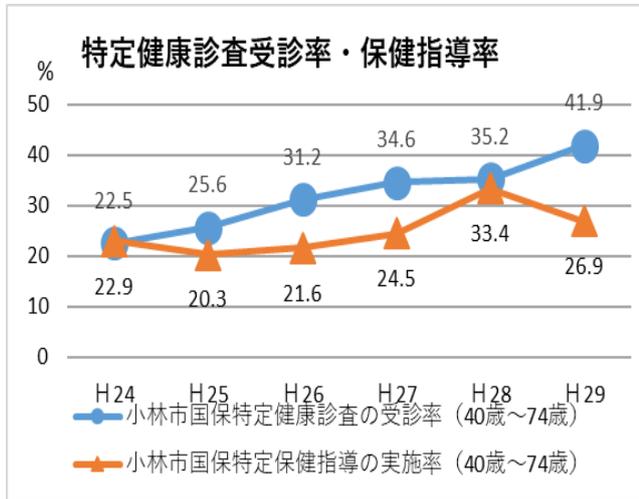
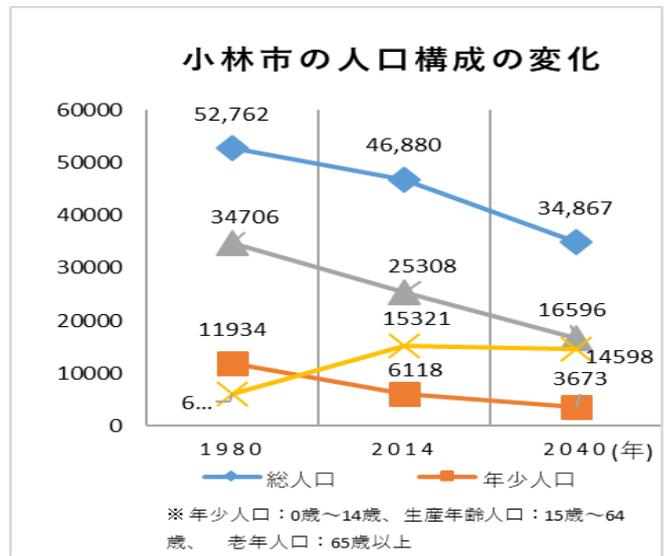
平成25年に「地域における保健師の保健活動について」通知がされ、「市町村は実態把握及び健康課題の明確化、地域診断を実施し、市町村において取り組むべき健康課題を明らかにするとともに、各種情報や健康課題を住民と共有するよう努めること」となっている。少子超高齢社会による人口減少、疾病構造の変化、家族の変化、また、個人主義などにより個人完結型になり、周りの人々とのつながりが必要な時代である。そのような中、健康推進員は健康づくりを目的に養成され、平成20年に特定健康診査が始まり受診率アップに向けて育成強化され、現在は共生社会にむけて重要な人材である。また他にも様々な推進員が地域の健康課題に取り組んでいる。保健活動の本質を視点に住民間で問題解決できる仕組みづくり地域づくりを展開してきたので、現在までの経過をここに報告する。

2 小林市の概要

小林市は面積 563.09 ㎢で、宮崎県の 7.3 %を占める。昼夜の気温差や夏と冬の寒暖差が大きく、霧の発生が多い地域。平成18年に須木村と平成22年に野尻町と合併し現在に至る。

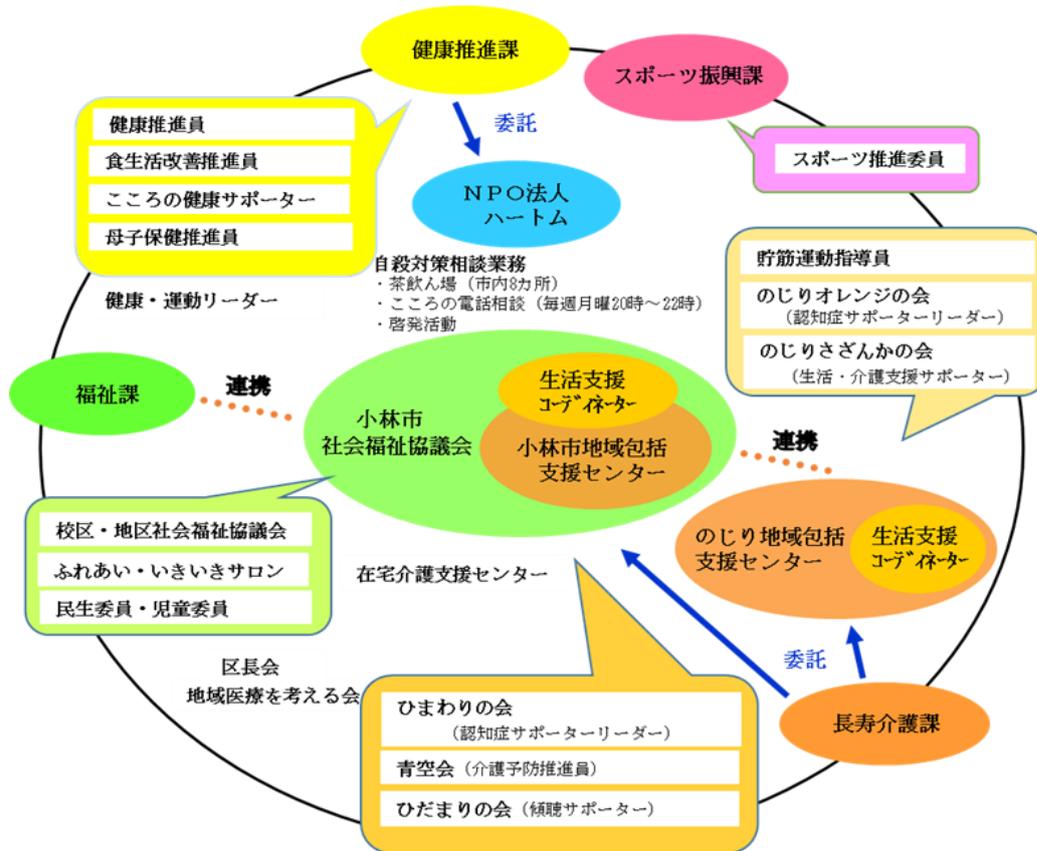
保健師数 14名 母子保健・歯科感染・けんしん・健康支援グループ

十



3 対象と方法

年度	打合	内 容	参加者数
27	3	各推進員の活動紹介 地域での健康づくり GW	71名
28	2	地域を元気にしよう会 医師講演包括ケアシステム GW	120名
29	7	地域を元気にしよう会 関係図作成 GW	81名
30	6	活動誌 発行	—



住民のリーダーの横の連携が取れ、それぞれの目的を知り、共有することができた。

また、関係団体の事業を知ることで、協力体制を確認しながら日常の業務を見直し、既存事業の見直しや、資源や人材、優先順位を考慮しターゲットを絞り、対象に見合った保健事業に組み替えることができた。現在包括支援センターより、運動教室の案内、自殺対策の居場所づくり等が一覧表になり毎年発行されている。

5 考察

市町村保健師は住民と顔の見える関係にあり、日頃より健康相談・教育等で人を知ることができる。集団教育をしながら個人を見、推進員へ協力依頼できた。各種推進員が多くなることで、地域の健康問題に早期に気づき、つなぐ仕組みができる。つまり、生活習慣の改善や適切な医療・悪化、重症化予防、自殺予防ができることになる。これらが、保健活動の本質「みる」「つなぐ」「動かす」②予防的介入の重視③地域活動に立脚した活動の展開になる。しかし、これには保健師の力量も必要である。学生時代から保健師として社会情勢を踏まえた長期的な将来を見据えることができる保健師像を得ることに期待する。

また、連携・改善する方法として「見える化」することで促進することができたと考えられる。地域の健康を守るうえでも「見える化」は重要な視点である。

6 おわりに

今回「地域を元気にしよう会」にかかわってくださった皆様に心から感謝いたします。

参考文献

- 1) 原田正樹：地域共生社会の実現に向けて その背景と方向性 保健師ジャーナル Vol.74 No. 10 P818 - 823
- 2) 尾田進：「地域における保健師の保健活動に関する指針」のポイント 保健師ジャーナル Vol.69 No. 7 P496 - 503